

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04774

研究課題名（和文）日本語表記に使われる文字の由来、特質等を理解させるための視聴覚教材の開発

研究課題名（英文）Development of audiovisual materials for understanding the origin and characteristics of the characters used in Japanese notation 1

研究代表者

和田 圭壮（WADA, KEISO）

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70263986

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究によって、小学校国語科高学年の学びでの「漢字の由来」について、授業時に助けとなる動画教材を作成することができた。そして、この動画教材は、YouTubeによるWeb公開をすることができ、いつでも誰でも広く閲覧できる状況として整備することができた。さらに、この動画教材を活用するための、2時間単元のモデル授業を考察することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校国語科高学年での「漢字の由来」について、小学校教師はあまりに多忙であり、教材研究への時間を割くことが難しく、教科書教材だけでは、漢字の歴史的変遷について、児童の関心を喚起することができていない現状がある。特に、経験年数が少なく漢字の知識に自信がない教師が多くなってきている。本研究の成果によって、その問題を解決するための動画教材を作成することができた。そして、Web公開できたことで、多くの小学校教師にとって、授業にあたっての強力な補助教材になるとと思われる。

研究成果の概要（英文）：Through this study, we were able to create a video teaching material that helps in class about "origin of Chinese characters" in the learning of the upper grades of elementary school Japanese language. And this video teaching material could be published on Youtube on the Web, so that anyone could view it widely. Furthermore, I was able to consider a model lesson of 2 hours unit to utilize this video teaching material.

研究分野：書写書道教育

キーワード：漢字の成り立ち 漢字の由来、特質等 動画教材 漢字指導

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

歴代の小学校学習指導要領国語の教科目標において、「…、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」と掲げ続けられている。

一方で、「平成 25 年度国語に関する世論調査」(文化庁、2014)の問 1 によると、言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心は、次のような結果となった。

○以前よりも高くなっていると思う…22.8% ○以前と変わらないと思う…25.6%

○以前よりも低くなっていると思う…48.2% ○分からない…3.4%

上記の数値から、国語への関心及び国語を尊重する態度が育成されていないと判断するのは早計であるが、本研究組織は、近年、国語への関心及び国語を尊重する態度を育成しにくい社会状況になってきたと感じていた。

たとえば、鈴木(研究分担)が、日本語表記に使われる漢字は、「人工的に作ったものだと思うか」と長崎大学教育学部小学校教育コースの学生に質問したところ、即座に「NO」と回答できる学生は 1 割程度しかいなかった。次いで、自分が小学生の時に、日本語表記に使われる文字の由来、特質について学習したか。また、学習したとしたら、どのような内容を学習した覚えがあるかと質問すると、十分な回答ができる者は皆無であった。

なお、歴代の小学校学習指導要領国語の[第 5 学年及び第 6 学年]〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導事項には、「仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。」と記述されている。

これらをふまえて、学生に、「漢字だいすき」(NHK エディケーショナル編、阿辻(研究分担者)監修 2004)を視聴させた。すると、学生は、以下のように変容した。

a.漢字には一つ一つ意味があり、昔の人はよく考えていてすごいなと思いました。自分が今まで何も考えず漢字を書いていたんだと実感しました。

b.文字ってすごいと思いました。今、普通に使っているけれど、それらができるまでに、いろいろ過程があって驚いた。

c.今まで漢字は適当に作られた記号のようにしかとらえていなかったが、それぞれの漢字には意味があることを知り、奥深さを感じた。

上記の a~c からは、単純な発見、驚きとともに、漢字への興味が喚起されたこと並びに漢字文化を尊重する気持ちが醸成されたことが読み取れる。これは、言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心を引き上げることにつながっていくと考えた。

ちなみに、和田(福岡教育大学附属久留米小学校校長)が、身近な教師に対して調査を行ったところ、該当の指導事項に関しては、十分に時間を割くことができない現状にあることが分かった。

日本語表記に使われる文字(漢字、平仮名、及び片仮名)は、もちろん工業製品ではない。消費材でもない。ところが、小学校教師の卵には、このことが虚ろなのである。言葉を使うだけ使って、伝承するという気持ちが希薄であることがわかった。まさに、言語文化の危機的状況といえる。

先に述べた「国語への関心及び国語を尊重する態度を育成しにくい社会状況」とは、このことを指している。

これらのことから、本研究組織(和田、阿辻、鈴木、河野、山元)は、直面する文化的危機を避け、世界一多忙であると言われる日本の小学校教師の一助となるために、「日本語表記に使われる文字の由来、特質等の理解を助けるための視聴覚教材の開発」を発想した。

視聴覚教材とする理由は、以下の通りである。

a.字体の変遷を動態提示することができる。紙媒体では、不可能である。

b.視聴時間 3 ~ 5 分といったパッケージにし、そこに濃縮した要素を格納する。

c.現代的志向に合致している。

なお、3 ~ 5 分のパッケージにする利点は、使い手が目的に応じて自由に組み合わせることができるからである。たとえば、朝の始業時間の 5 分を、モジュール時間として設計することも可能であり、国語科の授業時間、書写の授業時間及び社会科の授業時間に、ピンポイントで活用することも可能である。

2. 研究の目的

国語を尊重する態度を育成するためには、日本語の由来、特質の、具体的な事例に触れさせる必要がある。その機会が、現在の小学校教育には欠落している。理由として、大きくは、2 つある。小学校教師があまりに多忙であるので、教材研究に手が回らない。教科書教材だけでは、歴史的変遷を動態提示することができず、児童の関心を喚起することができない。以上をふまえて、本研究課題では、この 2 つを解消するために、日本語の表記に使われる文字の由来、特質等に関するカリキュラム及び教材を制作する。それを Web 公開する。さらに、その効果を測定し、国語を尊重する態度の育成へとつなげる。

3. 研究の方法

研究計画及び方法は、以下の通りであった。

初年次(平成 28 年度)は、漢字の由来、特質等を理解させるためのカリキュラム作成を行う。主対象は、小学校高学年とし、それに基づき、漢字の選定を行い、Web 教材のデザインを行う。

2 年次(平成 29 年度)は、前年度の成果を踏まえて、Web 教材の制作を行う。本研究組織はデ

レクシオンを行い、実際の Web 制作は専門の業者に発注する。

最終年次(平成 30 年度)は、Web 運用を開始し、附属小学校及び公立小学校で、Web 教材を使用した授業を試行し、効果を測定する。

以上であったが、動画制作に時間を要したため、1 年延長し、令和元年度が最終年となっている。

次に、研究体制は以下の通りであった。

研究代表：和田圭壮（教科教育学(芸術科書道) / 福岡教育大学教育学部）

研究分担：阿辻哲次（漢字文化学 / 京都大学大学院人間・環境学研究科）*1

鈴木慶子（教科教育学(国語科書写) / 長崎大学教育学部）

河野智文（教科教育学(国語科) / 福岡教育大学教育学部）

山元宣宏（漢字学 / 宮崎大学教育文化学部）

研究協力(視聴覚教材化に関するアドバイス)：

鈴木晴之氏（NHK エデュケーショナル）*2

*1：平成 22 年改定常用漢字表の作成に携わる。古代の漢字文化の研究にとどまらず、現在及び将来の漢字文化に関しても、発言を行っている。なお、平成 28 年度をもって定年退職となるが、本研究を継続することの承諾を得ている。

*2：NHK E テレの制作プロデューサー。「漢字だいすき」(NHK エデュケーショナル編、阿辻(研究分担者)監修 2004)の制作担当者。

すなわち、言語文化に関する研究者(阿辻、山元)、言語文化の教育研究者(和田、鈴木、河野)、及び視聴覚編集に関して専門的スキルを持つ(鈴木)との共同体制で臨んだ。

4. 研究成果

本研究によって、小学校国語科高学年の学びでの「漢字の由来(成り立ち)」について、教師、特に経験年数が少なく知識に自信がない教師にとって、授業時に助けとなる動画教材を作成することができた。そして、この動画教材は、You Tube による Web 公開をすることができ、いつでも誰でも広く閲覧できる状況として整備することができた。

さらに、この動画教材を活用するために、2 時間単元のモデル授業を考察し、1 時間目については公開できる略案を示すことができた。この授業モデルは、ただ知識として理解し、暗記するような学習ではない展開とした。つまり、対話的な活動をしながら、動画によって、漢字が古代文明から継承され、複雑に変化しながら、現代にまで体系が維持されたことが、印象的に理解できる内容を示すことができたのである。

2 時間目のモデル授業については、会意文字・形声文字について、公立の一般校で、子どもたちが明確に理解できるような授業展開を構築することの難しさを、改めて思い知らされた。本研究によって、会意文字・形声文字について、さらに理解しやすい内容による授業を考案することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 和田圭壮、鈴木慶子、河野智文、山元宣宏
2. 発表標題 小学校国語科「漢字の由来」の授業を支援する動画教材の開発
3. 学会等名 全九州大学書写書道教育学会佐賀大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究によって作成した動画教材3本を、You tubeにおいて公開した。アカウント名は「漢字ってなんなのだ研究所」である。</p> <p>漢字の成り立ち（象形文字編） https://www.youtube.com/watch?v=tIG792_AF18&app=desktop</p> <p>漢字の成り立ち（指事文字編） https://www.youtube.com/watch?v=tDwyLg17zA&app=desktop</p> <p>漢字の成り立ち（会意文字・形声文字編） https://www.youtube.com/watch?v=6ZvM89Y9HRk&app=desktop</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿辻 哲次 (ATSUJI TETSUJI) (00144303)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	研究初年次のみ参画
研究分担者	鈴木 慶子 (SYZUKI KEIKO) (40264189)	長崎大学・教育学部・教授 (17301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山元 宣宏 (YAMAMOTO NOBUHIRO) (60571156)	宮崎大学・教育学部・准教授 (17601)	
研究分担者	河野 智文 (KAWANO TOMOHUMI) (70304144)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究協力者	鈴木 晴之 (SUZUKI HARUYUKI)		